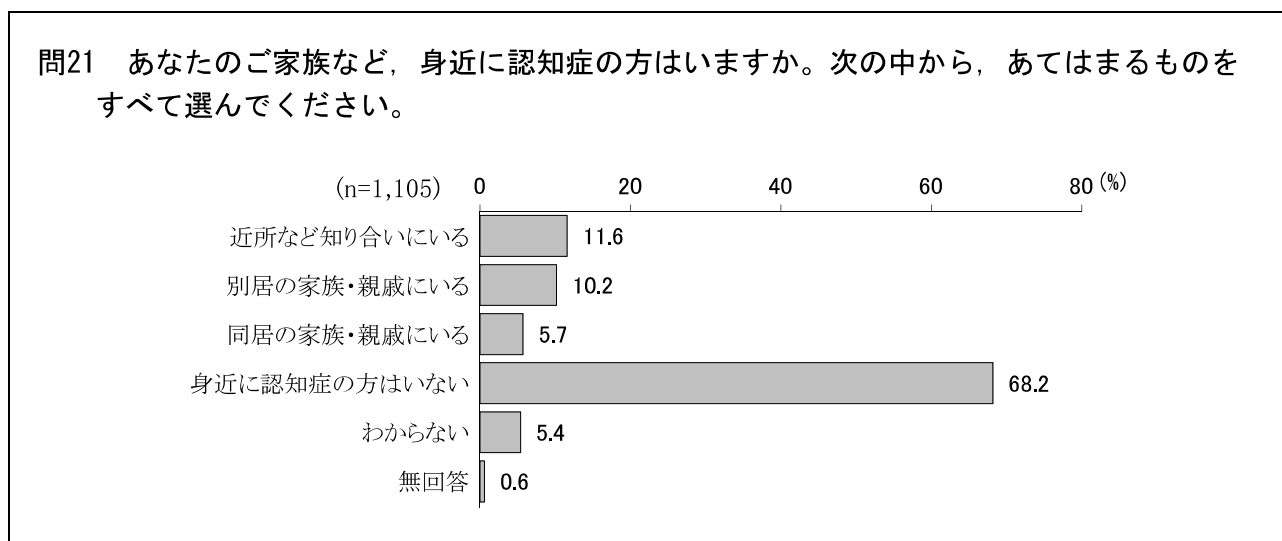


Ⅸ 認知症の介護支援

1. 身近に認知症の方がいるか

－「近所など知り合いにいる」，「別居の家族・親戚にいる」が1割台前半－



身近に認知症の方がいるかは，「近所など知り合いにいる」（11.6%）と「別居の家族・親戚にいる」（10.2%）が1割台前半となっている。一方，「身近に認知症の方はいない」（68.2%）が約7割となっている。

－特に大きな地域差はない－

地域別でみると，各選択肢で特に大きな地域差はみられない。

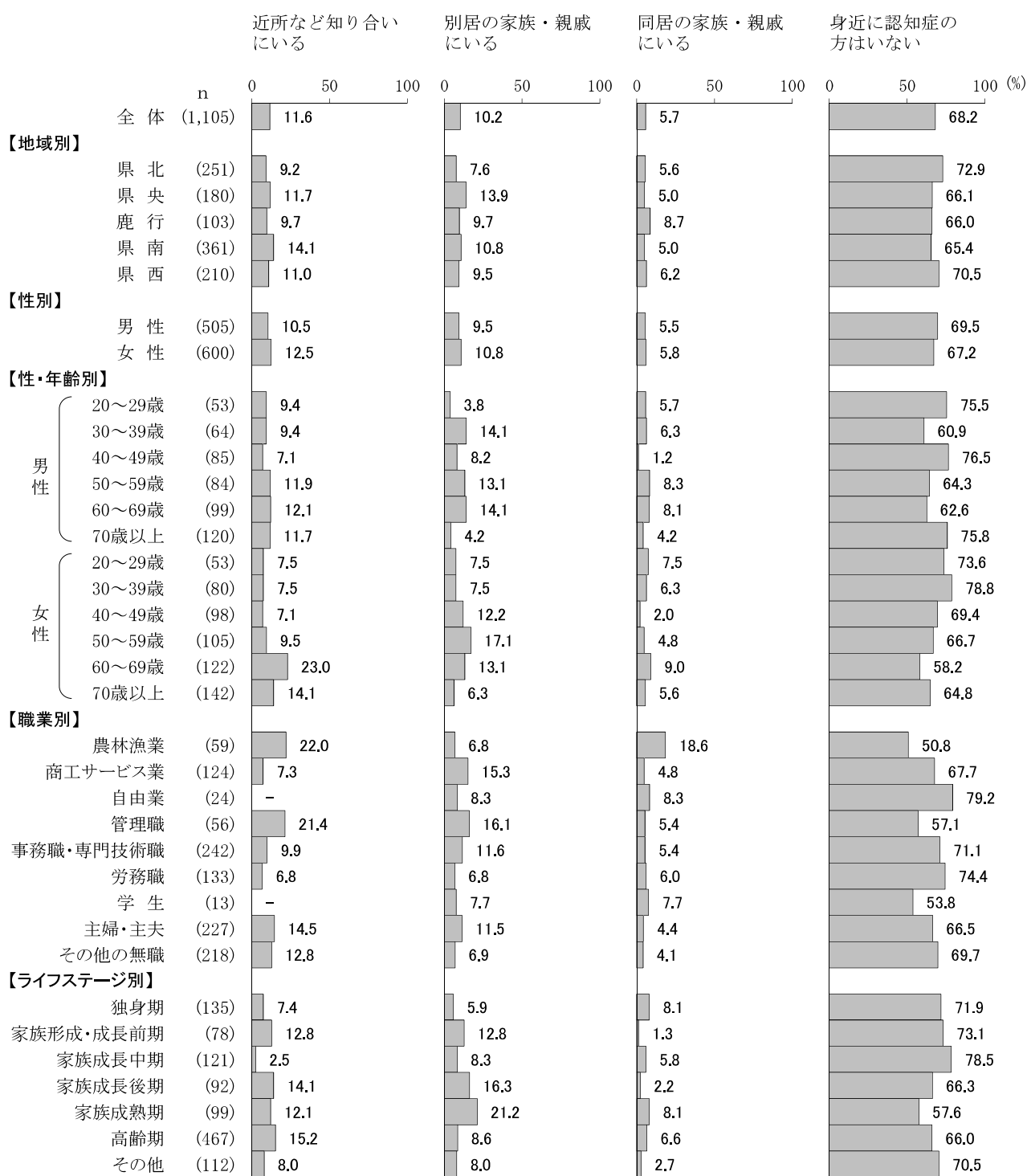
－女性の60代で「近所など知り合いにいる」が2割台半ば－

性・年齢別でみると，「近所など知り合いにいる」は，女性の60代（23.0%）で2割台半ばと最も高くなっている。

－女性の50代で「別居の家族・親戚にいる」が約2割－

性・年齢別でみると，「別居の家族・親戚にいる」は，女性の50代（17.1%）で約2割と最も高くなっている。

図区 21-1 身近に認知症の方がいるか
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別)

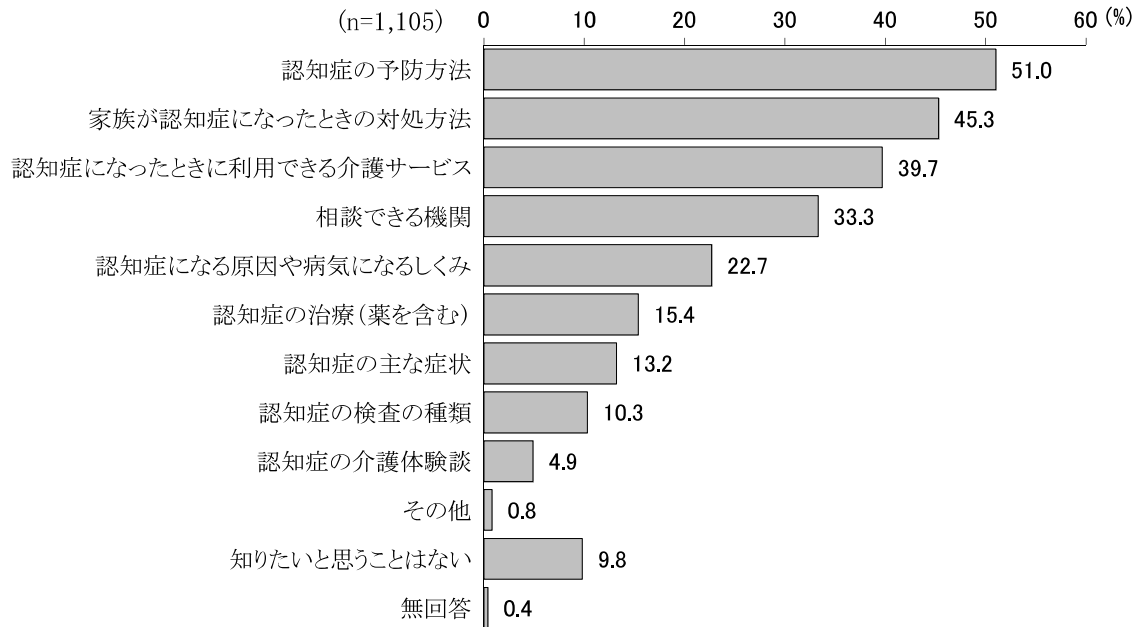


(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

2. 認知症について知りたい情報

－「認知症の予防方法」が5割超－

問22 あなたが、認知症について知りたい情報は何か。次の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。



認知症について知りたい情報としては、「認知症の予防方法」(51.0%)が5割を超えて最も高く、次いで、「家族が認知症になったときの対処方法」(45.3%)が4割台、「認知症になったときに利用できる介護サービス」(39.7%)と「相談できる機関」(33.3%)が3割台で続いている。

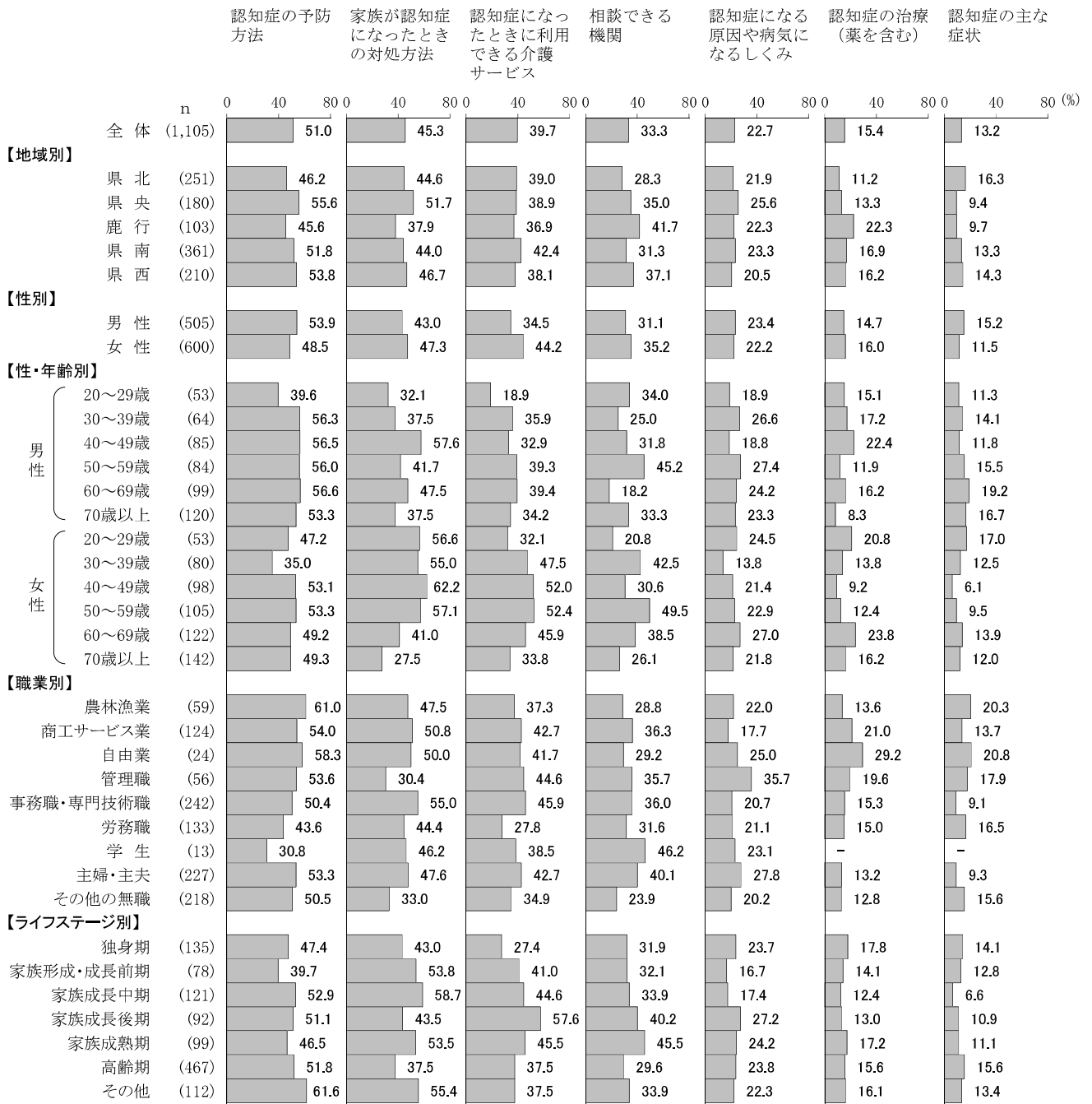
－女性で「認知症になったときに利用できる介護サービス」が男性よりも約10ポイント高い－

性別でみると、「認知症になったときに利用できる介護サービス」は、女性(44.2%)が男性(34.5%)よりも約10ポイント高くなっている。

－女性の40代で「家族が認知症になったときの対処方法」が6割超－

性・年齢別でみると、「家族が認知症になったときの対処方法」は、女性の40代(62.2%)で6割を超えて最も高く、次いで、男性の40代(57.6%)、女性の20代(56.6%)、30代(55.0%)、50代(57.1%)で5割台後半と高くなっている。

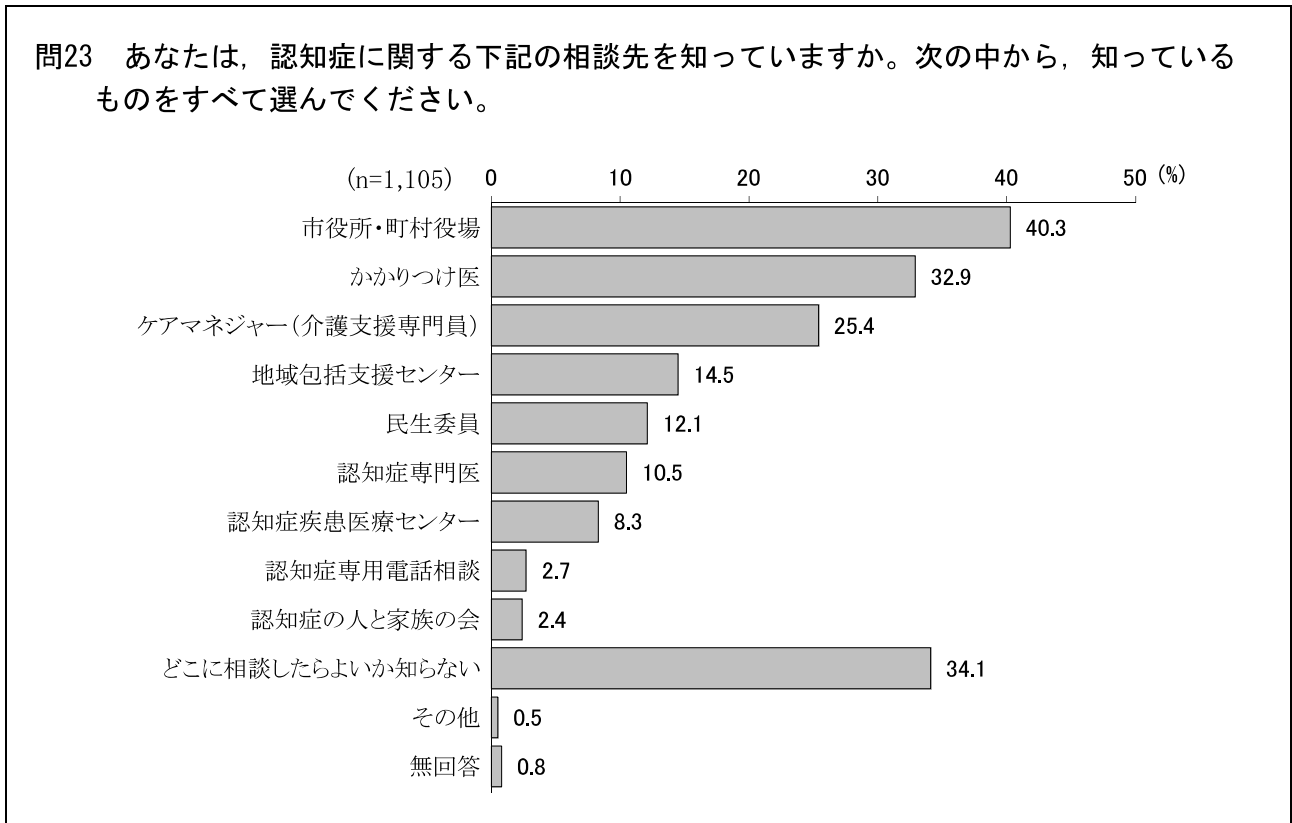
図IX 22-1 認知症について知りたい情報
(地域別、性別、性・年齢別、職業別、ライフステージ別—上位7項目)



(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

3. 知っている相談先

－「市役所・町村役場」が約4割－



知っている相談先としては、「市役所・町村役場」(40.3%)が約4割と最も高く、次いで、「かかりつけ医」(32.9%)が3割台、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(25.4%)が2割台で続いている。一方、「どこに相談したらよいか知らない」(34.1%)が3割台半ばとなっている。

－特に大きな地域差はない－

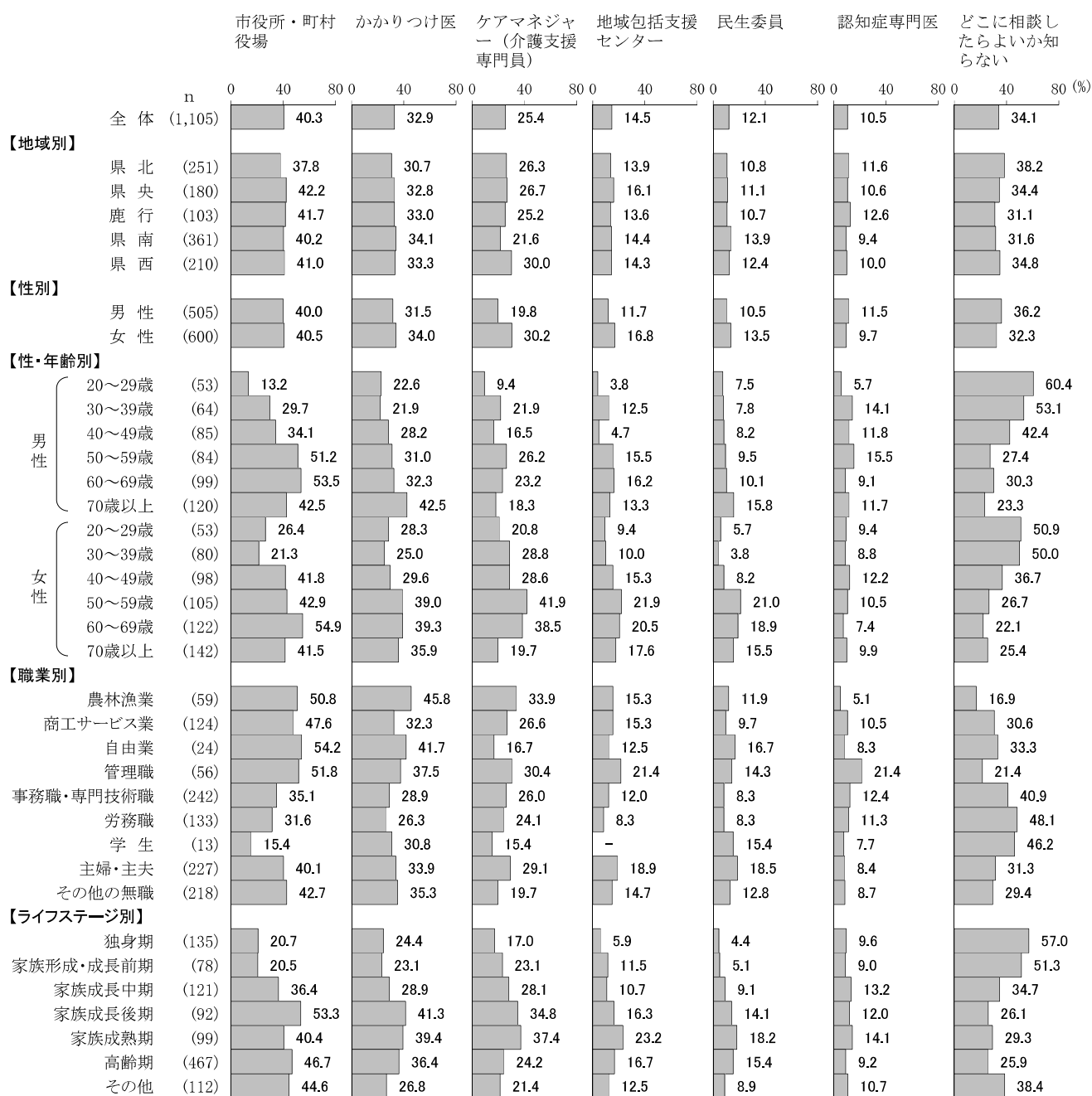
地域別でみると、各選択肢で特に大きな地域差はみられない。

－男性の50代、60代、女性の60代で「市役所・町村役場」が5割台前半－

性・年齢別でみると、「市役所・町村役場」は、男性の50代(51.2%)、60代(53.5%)、女性の60代(54.9%)で5割台前半と高くなっている。一方、「どこに相談したらよいか知らない」は、男性の20代(60.4%)で約6割、男性の30代(53.1%)、女性の20代(50.9%)、30代(50.0%)で5割台前半となっている。

図区 23-1 知っている相談先

(地域別、性別、性・年齢別、職業別、ライフステージ別—上位7項目)

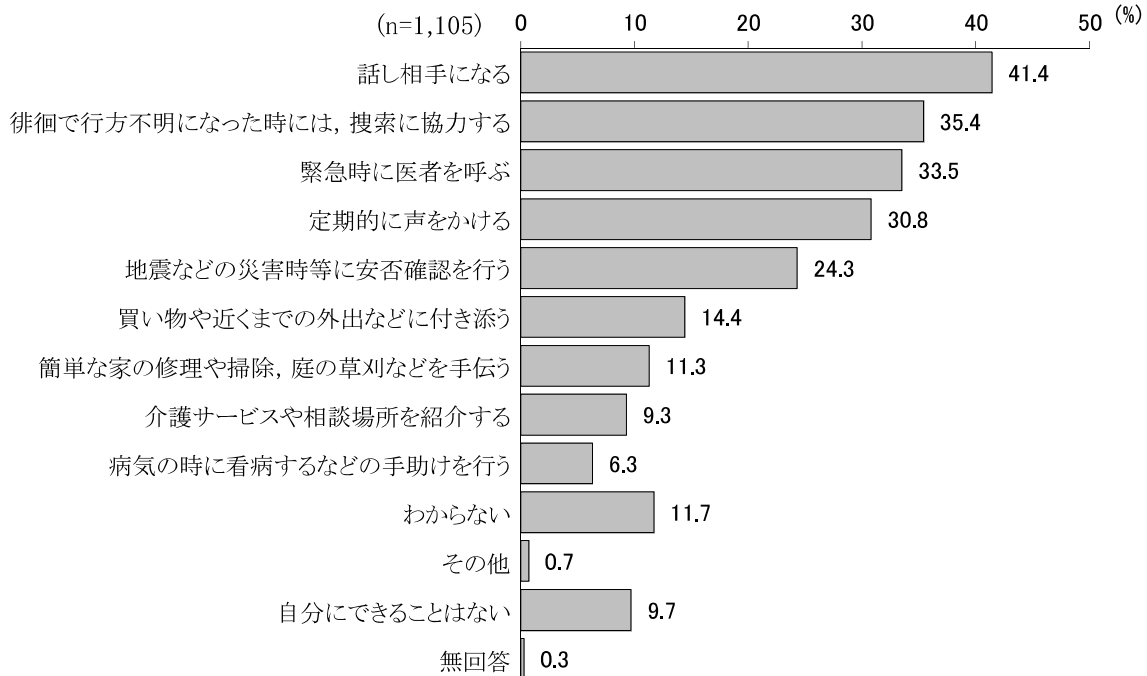


(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

4. 認知症の方とその家族を支えるためにできること

－「話し相手になる」が4割超－

問24 あなたのご近所に住んでいる認知症の方とその家族（介護者）を支えるとしたら、あなたはどんなことができると考えますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



認知症の方とその家族を支えるためにできることとしては、「話し相手になる」（41.4%）が4割を超えて最も高く、次いで、「徘徊で行方不明になった時には、捜索に協力する」（35.4%）、「緊急時に医者を呼ぶ」（33.5%）、「定期的に声をかける」（30.8%）が3割台で続いている。

－女性で「話し相手になる」と「定期的に声をかける」がそれぞれ男性よりも約13ポイント高い－
性別でみると、「話し相手になる」は、女性（47.5%）が男性（34.3%）よりも約13ポイント、「定期的に声をかける」も、女性（36.5%）が男性（24.0%）よりも約13ポイント高くなっている。

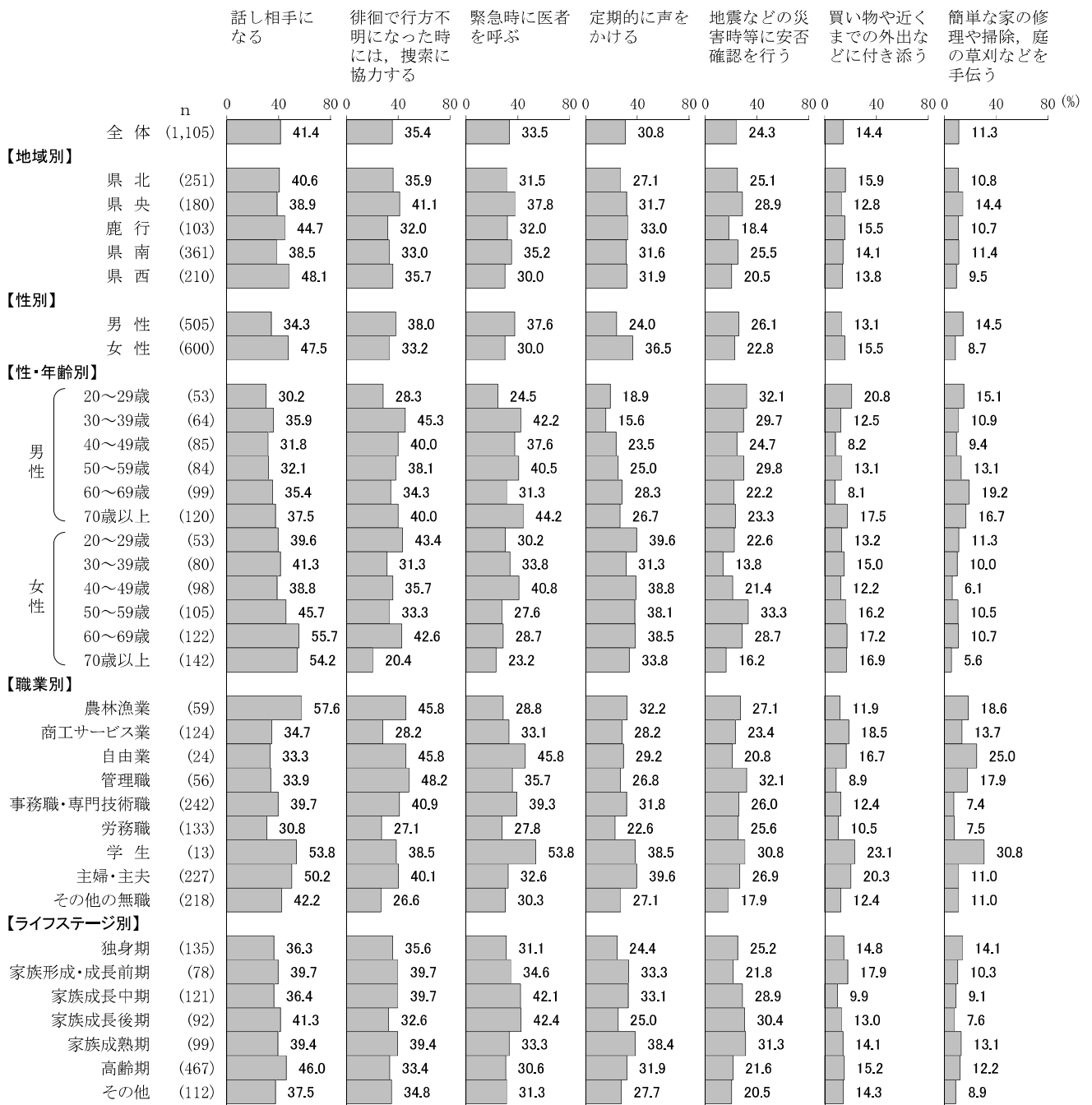
－女性の60代と70歳以上で「話し相手になる」が5割台半ば－

性・年齢別でみると、「話し相手になる」は、女性の60代（55.7%）と70歳以上（54.2%）で5割台半ばと高くなっている。

－男性の70歳以上で「緊急時に医者を呼ぶ」が4割台半ば－

性・年齢別でみると、「緊急時に医者を呼ぶ」は、男性の70歳以上（44.2%）で4割台半ばと最も高くなっている。

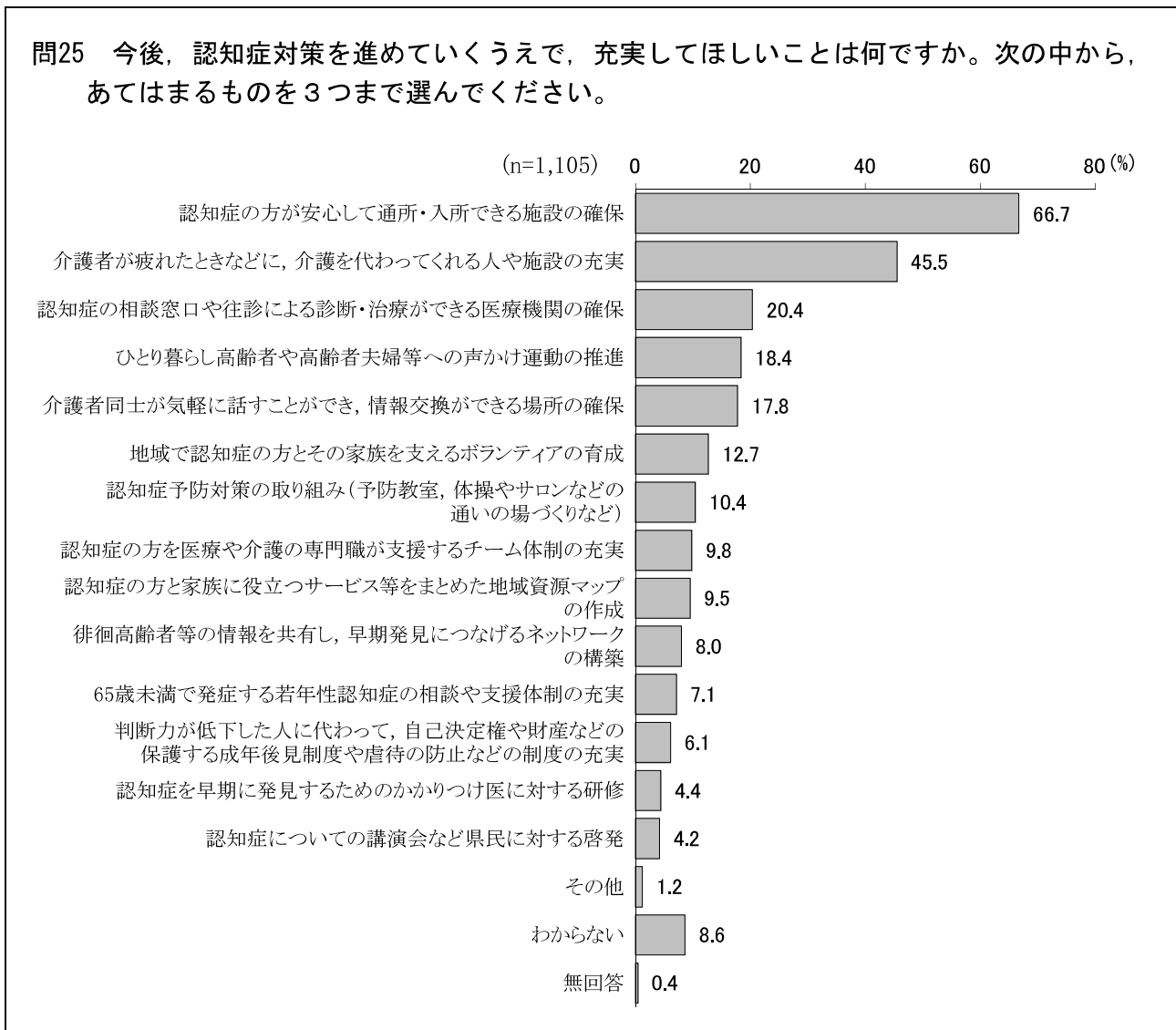
図区 24-1 認知症の方とその家族を支えるためにできること
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位7項目)



(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

5. 認知症対策で充実してほしいこと

－「認知症の方が安心して通所・入所できる施設の確保」が6割台半ば－



認知症対策で充実してほしいこととしては、「認知症の方が安心して通所・入所できる施設の確保」(66.7%)が6割台半ばと最も高く、次いで、「介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設の充実」(45.5%)が4割台で続いている。

－女性で「介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設の充実」が男性よりも約8ポイント高い－

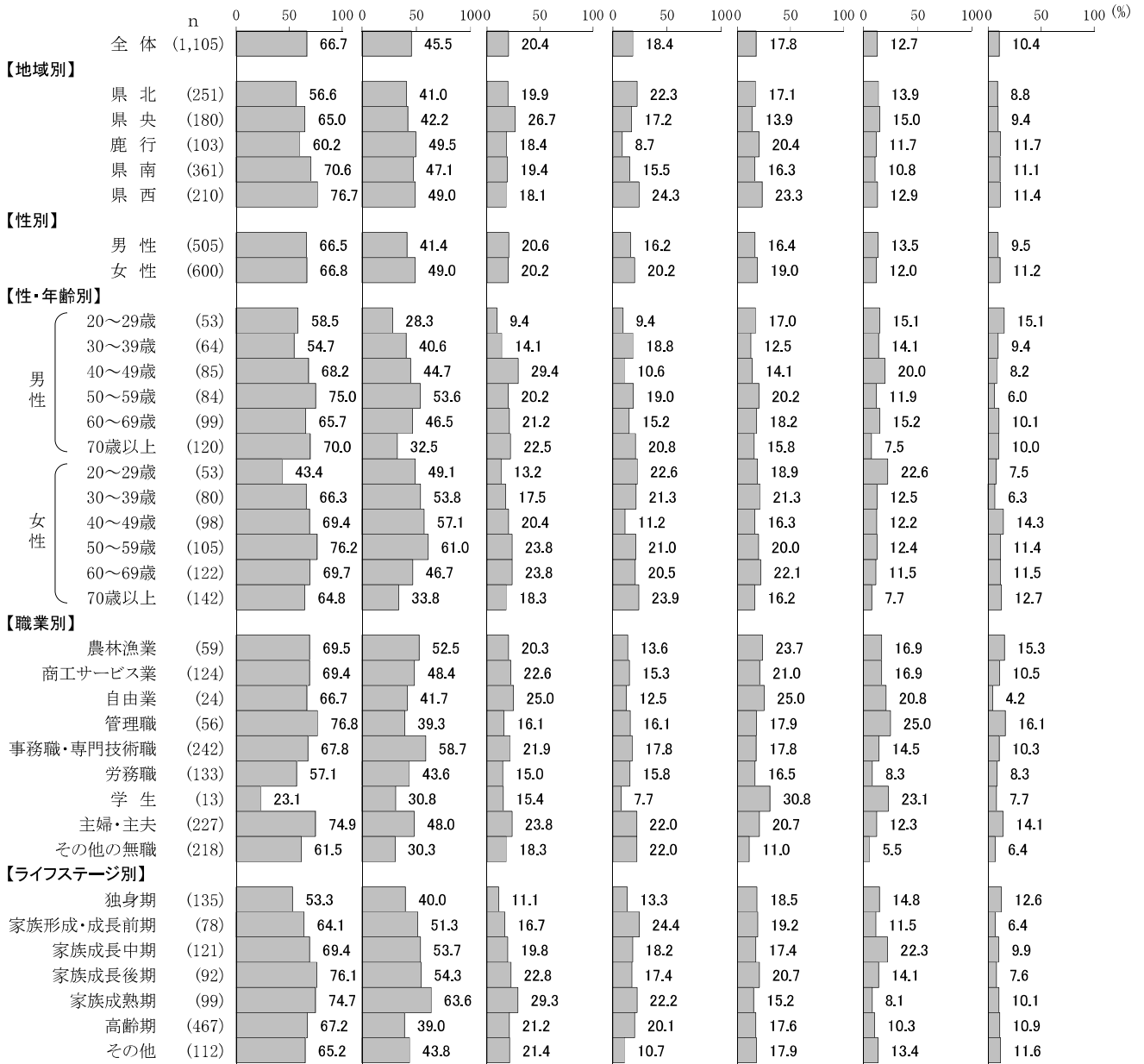
性別でみると、「介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設の充実」は、女性(49.0%)が男性(41.4%)よりも約8ポイント高くなっている。

－女性の50代で「介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設の充実」が6割超－

性・年齢別でみると、「介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設の充実」は、女性の50代(61.0%)で6割を超えて最も高く、次いで、女性の40代(57.1%)で約6割と高くなっている。

図Ⅸ 25-1 認知症対策で充実してほしいこと
 (地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別—上位7項目)

認知症の方が安心して通所・入所できる施設の確保
 介護者が疲れたときなどに、介護を代わってくれる人や施設の充実
 認知症の相談窓口や往診による診断・治療ができる医療機関の確保
 ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦等への声かけ運動の推進
 介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換ができる場所の確保
 地域で認知症の方とその家族を支えるボランティアの育成
 認知症予防対策の取り組み(予防教室、体操やサロンなどの通いの場づくりなど)



(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。